

【第1部】基礎編

Q1. 次の傍線部「ず」の活用形を答えよ。

我れ知らず。

Q2. 次の傍線部「ぬ」を識別せよ。

物言はぬ人。

Q3. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

知らねば、答へず。

Q4. 次の傍線部「ず」を識別せよ。

物言はずして、立ち去る。

Q5. 次の傍線部「ざり」を識別せよ。

知らざりけり。

Q6. 次の傍線部「ぬ」を識別せよ。

花咲かぬ夜。

Q7. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

思はねど、口に出す。

Q8. 次の傍線部「ず」を識別せよ。

雨降らず。

Q9. 次の傍線部「ざる」を識別せよ。

知らざる人。

Q10. 次の傍線部「ず」を識別せよ。

食はずして、寝ぬ。

Q11. 次の傍線部「ぬ」を識別せよ。

寝られぬ夜。

Q12. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

来ねば、待つ。

Q13. 次の傍線部「ず」を識別せよ。

我れ仕うまつらず。

Q14. 次の傍線部「ざれ」を識別せよ。

知らざれば、答へず。

Q15. 次の傍線部「ぬ」を識別せよ。

嵐山に登らぬ人。

Q16. 次の傍線部「ず」を識別せよ。

いまだ書かず。

Q17. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

終夜（よもすがら）思ひに沈みて寝ぬれど、夢は見ず。

Q18. 次の傍線部「ず」を識別せよ。

風吹かず、波静かなり。

Q19. 次の傍線部「ぬ」を識別せよ。

月見ぬ人、世になし。

Q20. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

言はねばこそ、奥ゆかしけれ。

【第2部】標準編

Q21. 「ず」を識別せよ。

行かず、ただ立ち止まる。

Q22. 「ぬ」を識別せよ。

春来たらぬ山。

Q23. 「ね」を識別せよ。

物食はねば、痩せたり。

Q24. 「ざり」を識別せよ。

知らざりしを、嘆く。

Q25. 「ず」を識別せよ。

我れ思はず。

Q26. 「ざる」を識別せよ。

心ある人にあらざるを、嘆く。

Q27. 「ず」を識別せよ。

仕うまつらずして、退き出づ。

Q28. 「ぬ」を識別せよ。

言はぬことを、聞く。

Q29. 「ざれ」を識別せよ。

知らざれば、教ふ。

Q30. 「ず」を識別せよ。

我れも来ず。

Q31. 「ね」を識別せよ。

行かねば、ここに居る。

Q32. 「ぬ」を識別せよ。

月見ぬ夜は、なほさうざうし。

Q33. 「ざり」を識別せよ。

雨降らざりつる夜半。

Q34. 「ず」を識別せよ。

詠まずして、心定まりぬ。

Q35. 「ね」を識別せよ。

物言はねど、目に物言ふ。

Q36. 「ざる」を識別せよ。

心通はざる人。

Q37. 「ず」を識別せよ。

来ずして、待ちぬ。

Q38. 「ぬ」を識別せよ。

名乗らぬ人ぞ怪し。

Q39. 「ね」を識別せよ。

知り給はねば、教ふべし。

Q40. 「ざれ」を識別せよ。

心ある人にあらざれば、これを解せず。

Q41. 「ず」を識別せよ。

我れ語らずして、退く。

Q42. 「ぬ」を識別せよ。

あらはれぬ人。

Q43. 「ざる」を識別せよ。

心定まらざるを、嘆く。

Q44. 「ね」を識別せよ。

我れ知らねばこそ、なほ恋し。

Q45. 「ず」を識別せよ。

いまだ起きず。

Q46. 「ぬ」を識別せよ。

都に住まぬ人ら。

Q47. 「ざり」を識別せよ。

物食はざりけれども、太れり。

Q48. 「ず」を識別せよ。

風吹かずして、舟止まる。

Q49. 「ね」を識別せよ。

月隠れねば、なほ明し。

Q50. 「ざる」を識別せよ。

心通はざるものなり。

【第3部】 応用編

Q51. 「ず」を識別せよ。

行く川のながれは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。

Q52. 「ぬ」を識別せよ。

知らぬ間に春は来にけり。

Q53. 「ね」を識別せよ。

言はねばこそありけれ。

Q54. 「ざり」を識別せよ。

あらざりけるを、嘆く。

Q55. 「ず」を識別せよ。

我れ仕うまつらずして、退きいづ。

Q56. 「ぬ」を識別せよ。

風吹かぬ夜、月清く照る。

Q57. 「ね」を識別せよ。

心ある人にあらねば、これを解せず。

Q58. 「ざる」を識別せよ。

嵐の風吹かざる夜、なほ恐し。

Q59. 「ず」を識別せよ。

雨やまずして、川あふる。

Q60. 「ぬ」を識別せよ。

我れ詠まぬを、人皆怪しむ。

Q61. 「ね」を識別せよ。

思はざるにしもあらねば、口に出す。

Q62. 「ざれ」を識別せよ。

物食はざれば、瘦す。

Q63. 「ず」を識別せよ。

心ある人にあらずは、これを解せず。

Q64. 「ぬ」を識別せよ。

物のあはれを知らぬ人にあらず。

Q65. 「ね」を識別せよ。

君行かねば、待ちわぶ。

Q66. 「ざり」を識別せよ。

詠まざりしを嘆く。

Q67. 「ず」を識別せよ。

我れ仕うまつらず。

Q68. 「ぬ」を識別せよ。

唐土に渡らぬ人ら。

Q69. 「ね」を識別せよ。

心の奥を知らねば、信ず。

Q70. 「ざる」を識別せよ。

物のあはれを解せざる人にあらず。

Q71. 「ず」を識別せよ。

風吹かず波荒からず。

Q72. 「ぬ」を識別せよ。

いまだ知らぬことぞ多き。

Q73. 「ね」を識別せよ。

嵐山に登らねば、紅葉を見ず。

Q74. 「ざり」を識別せよ。

心ありし人ならぬものの世。

Q75. 「ず」を識別せよ。

名乗らずして、立ち去りぬ。

Q76. 「ぬ」を識別せよ。

物のあはれを知らぬ身。

Q77. 「ね」を識別せよ。

仏に祈らねど、心安し。

Q78. 「ざる」を識別せよ。

風吹かざる夜、なほ波静か。

Q79. 「ず」を識別せよ。

我れ詠まずして、口を閉づ。

Q80. 「ぬ」を識別せよ。

心通はぬを嘆く。

【第4部】入試レベル

Q81. 「ぬ」を識別せよ。

仁和寺にある法師、年寄るまで、石清水を拝まざりければ、心うく覚えて、ある時思ひ立ちて、ただ一人、徒歩より詣でけり。

Q82. 「ね」を識別せよ。

月の都の人にしあらねば、いかでかかかる目に遭はむ。

Q83. 「ず」を識別せよ。

物のあはれを知らぬ人にあらず。

Q84. 「ぬ」を識別せよ。

知らぬを知らずとせよ。

Q85. 「ね」を識別せよ。

心ある人にあらねばこそ、これを解せず。

Q86. 「ぬ」を識別せよ。

月の出でぬ夜、なほ暗し。

Q87. 「ざり」を識別せよ。

物食はざりしことを、後悔す。

Q88. 「ぬ」を識別せよ。

仕うまつらぬこと、限りなし。

Q89. 「ね」を識別せよ。

仏に祈らねば、誰にか頼まむ。

Q90. 「ざる」を識別せよ。

心ある人にあらざるを嘆く。

Q91. 「ず」を識別せよ。

行く川のながれは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。

Q92. 「ぬ」を識別せよ。

心の奥を見せぬ人、世に多し。

Q93. 「ね」を識別せよ。

嵐の音絶えねば、なほ夜更けず。

Q94. 「ざり」を識別せよ。

物のあはれを解せざりしを後悔す。

Q95. 「ず」を識別せよ。

我れ歌詠まずして、なほ古典を愛づ。

Q96. 「ぬ」を識別せよ。

物言はぬを尊しとす。

Q97. 「ね」を識別せよ。

心ある人にあらねば、これを解せず。

Q98. 「ざる」を識別せよ。

行かざるを選ぶ。

Q99. 「ず」を識別せよ。

風吹かず波荒からずして、舟出づ。

Q100. 「ず」を識別せよ。

行く川のながれは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。